

世界平和萬民幸福祈念 秋季立教例大祭



深田先生ご夫妻、岡田光央先生を始め、各教団の諸先生方とも親しくご挨拶申し上げた。この後、昼食に預かる博多うどんを美味しく頂いた。この後理事会が開会、午後一時より四時まで三時間の会議となつた。休憩時に田中先生に質問なきはつまらずと一言お話しす。一通りの議事終りて田中先生より質問がなされ、後は力久先生が各先生に回し、話しをしてもらうこととなつた。相手に意見を求める時に、振るとか振った、とかの言葉は今流か。教団でもそういう言葉を使う者が若干名いたが、そのつど注意せしなり。宗教者たるもの下世話な言葉は慎むべきものと私は思考するものではあるが、会議終了なし、ホテルへ。六時より懇親会となる。私は自室に戻り少し寛ぐ。十分程前に総長の迎えで会場へ

十月一日、月始祭 精能開発実践会
特別講習会を開講す。大分皆も力をつけつつあるものと期待しているのだが、五日、六日と御魂結之神儀を嗣親斎にて執行す。大変有り難き神儀に感激、感動を新になしていたを漏れ聞くものであるが、動員力の弱きに心痛むものではある。尊き有り難きことを布教教化する力が実に弱いのである。教師、職員、信者の全員が、自分だけの信仰が今だに多い。勇気をもつて乗りこえる力が欲しいものである。

私は先月末の出張に引き続いて十月七日、八日、九日と、九州、奈良吉野に出張す。八日の善隣教さんでの理事会、全国総会、懇親会では宿泊ホテルにて合流し、十時に善隣教さんのマイクロバスにて向かう。善隣教さんの皆さんに笑顔をもつて迎えられ、神殿参拝、奥都城参拝、力久隆積先生の墓前にて葬儀参列の叶わぬ身のお詫びを申し上げた。私の外泊、外出禁の掟の一日半修行の期間中であつたが故の事ではあつたが。

八咫鏡と太陽を
かたどつたもの
で、國家の隆昌
と世界の共存共
栄を意味してお
ります。

神紋

た い わ こと たま
大和の言靈

笑顔で一日が締めくくられ
れば、翌日の目覚めは最高
に気分が良いものになる。

(大和神典 第五之一二言)

心・魂・精神こそが世界を救い得るものと私は思つてゐる。そして、日本は不思議な国、新宗連も不思議な連合団体であることを、お話をさせて頂いた。嗣親の報告によると、多くの先生方より、教主様のお話には心打られるごとであつたという。私は普通人の見方ではない穿った見方をもつてゐるようだ。次に乾杯のご挨拶を岡田光央先生がなされた。その後は楽しい語らいの時間を頂いた。新宗連は宗派も様々、考え方も。それでも皆、睦まじく一つの仕事を為している。やはり不思議な団体である。世界には絶対有り得ないことである。これも日本の精神なればこそと私は信念するのである。世界を救うは我が日本であり、大和精神であるを私は重ねて断つるものである。先生方とお別れを申し白室に戻る。シャワーにて洗体、ベッドに入る。初日目

A vertical calligraphic piece featuring the characters '中華' (China) in large, expressive black ink strokes. To the left, there is a vertical inscription '敬業勤學'. A red square seal is positioned at the bottom left. The entire composition is set against a light background.

日本も戦国時代を経しもん。魂の働きは全く違う次元にあるものと私は思うものだが。日本には、昨日の敵は今日の友”“人を騙すより騙される方がよい”“こういう心は歐米列強國を始めどの国にもないであろうことを。キリスト教、イスラム教、仏教でも地球を、人類を救えないでいる。日本人の

は、枕が合わず一睡もでき得ずであつたが、翌日は枕のセッティングの状態にて休むことにした。少しは休んだような気がするが、四時起床、六時にホテルを出て福岡空港から空路、大阪空港へ。レンタカーを借りて、奈良吉野の金峯山寺へと総長が運転。出張するお腹の調子、足の具合は甚に芳しくなくなる。満足に歩けない。酷いむくみを生ずるのである。二時間余走り十一時頃に金峯山寺務所に到着す。密井利隆事務長先生が笑顔で温かくお迎え下され来賓室へ。五條良知管長先生、五條永教執行長先生としばらく歓談。密井事務長先生が昔は花見になると喧嘩、怪我などしよつちゆうであったとか。驚きであった。このお山は静かに花を愛でるところの想いが強くあつた。この後、私の願いにて藏王堂中二階回廊に上らせ頂いた。眺望は正に絶景であつた。管長先生より詳しく述べ受けた。「桜の時期には非一度いらして下さい。」との言葉を頂いた。信者の皆さんにも一度はの心が芽生えしなり。令和九年は本教立教七十周年を迎える。その記念事業の一つとして令和八年に団体を組むかとの思いとなる。信者の皆にお見送りを拝しあ別れ申し、大阪空港へ。空路仙台へ戻る。歩き過ぎて足がかなりむくみになり。直すまでかなりの日数がかかるものと案じる。翌朝に我が体に大き変化症状が出る。今私の空港内を端から端を歩くのは無理かと覚るものであつた。翌日より三日間連続で特別神事執行。座すには難儀であつたが何とかお仕え申した。十六日には特別講習会と忙しき日となつた。

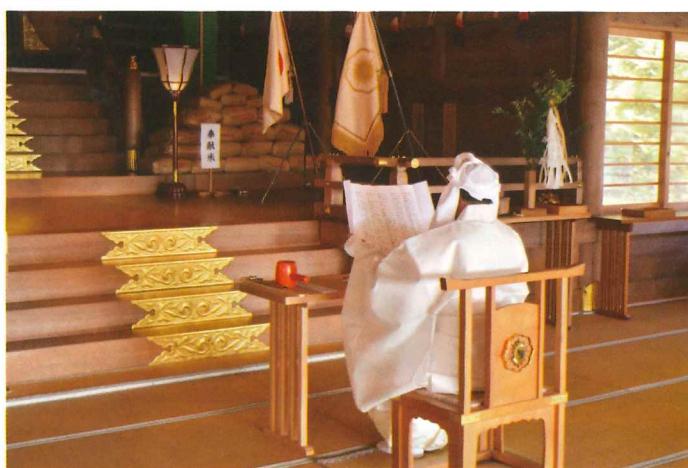
令和六年十月二十三日
教主秀圓

大和立教六十七周年
秋季立教例大祭
大火祭祈願大祭

十一月二日午前十時三十分、斎主
嗣親様により大和立教六十七周年秋季立教例大祭前日祭が大國神社御本殿にて斎行され、信奉者の祈願と和平串特別祈願が大前に言上げされ、心願・諸願成就が祈願された。

翌三日、午前九時半より、秋晴れに恵まれた大國神社において、立教六十七周年秋季立教例大祭本祭が斎行された。本殿内主教主様のもと斎行された。本殿内陣には海川山野の季節の神饌物が宇豆高く献供され、奉納された真心の御新穀米や御神酒が獻て奉られた。

大鳥居前にてお祓いを受けた白装束の随員が大和立教六十七年・天地一切清淨大神業と声高らかに奉称し



斎主教主様による祝詞奏上

次にご来賓の本教相談会の祝辭を頂き、祝電が披露され、儀式の結びに教主様より御覲教を賜つた。

引き続き、大國神庭前へと祭場を移し、第四十回世界平和萬民幸福祈念の大火祭祈願祭が執行された。

開祭詞の後、修祓、神淨所役により神淨められ、宝弓神事では東北と西南の方位に破邪矢が大発声のもと放たれた。宝弓は天高く、また地の底までその威を放ち破邪顕正の聖矢となつた。副斎主嗣親様により、火風結界、十字神傳が執行され御火壇に点火、御神炎が天空高く立ち昇つた。火祭祭員により、平和串特別祈願成就への願いの込められた幾万本の祈念串が気合発声と共に次々と投

教主様は東回廊より御入殿と参進、斎主なされ、典儀により開祭が宣された。斎主教主様により、煌びやかな衣装をまとつた愛らしい稚児が親御様と入殿、稚児祈願が執行され、健やかなる成長をご祈念申し上げ、教主様、嗣親様、祭員と共に記念撮影を行つた。子供等の愛らしい姿が参列者を和ませてくれた。次に斎主教主様玉串拝礼、参列者玉串拝礼が修められ、金幣拝戴神事が嗣親様による執事された。

火され、大太鼓が打ち響く中、参列者は大祓詞等を奉唱、教主様による特別神咒が執行され、嗣親様の剣と清淨により悪魔調伏がなされた。続いて神威開顕御幣を手にし、火祭壇を三度廻る神人和楽のおはやし行事が行われ、御鈴之祓いをもつて稜威をご拝受申し上げた。

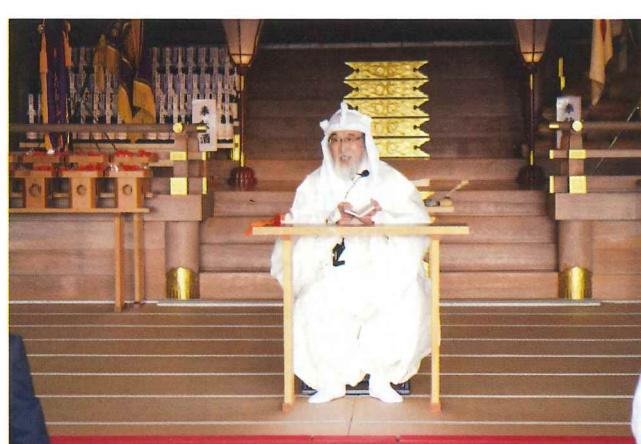


大島居前より御本宮へ列立参進



火祭祭員により御神火に平和串が投火された

皆さん大変ご苦労様でした。皆さんと一緒に少しでも世の中を良くするために、私も一生懸命お祈りをさせて頂きました。祈りは天地に神々に通ずるのです。私たちが受け継いで参つた伝統文化として、食事を頂く時に、頂きますと言います。これも祈りなのです。この世では体が無ければ生きていけません。この体を支えてくれる血があります。そこに栄養を与え、健康で長生きをするという力をもらうのが、色々な食べ物や飲み物の命です。人間は六十兆の細胞から成ると云われます。父母と七十二代遡ると十三桁の先祖が居ると云われます。この赤い血の中に二つのチが流れています。先祖代々尊い神様の縁である命、もう一つのチが、この肉体を養う為に沢山の命を頂いている靈（チ）です。



御親教を垂れられる筈顔の教主様

祖代々、そして神様の命を頂いています。やまと魂です。私共は他民族とは違います。本当に素晴らしい大切な命を頂いています。命・光・魂を太陽に素晴らしい笑顔の教主様

御親教を垂れられる

皆さんも何れ幽冥に行きますから頂いております。昼も有れば夜もあり、その中で生きています。昼だけ、温かいだけでは駄目なのです。寒くもなければなりません。この大自然の恵みを一番頂いている私たちの国土であり日本人だと思います。世界を救うのは日本人の精神。他の国では争うばかりで、物やお金で人間の価値を決めています。

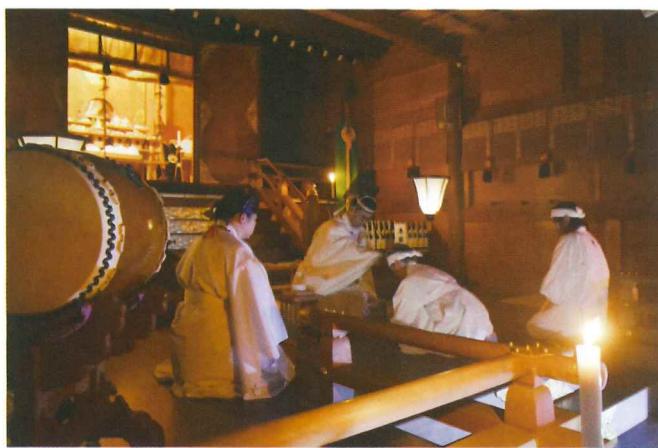
皆さんも何れ幽冥に行きます。体の無い世界です。そこでは自分の思いというものが、生き通し何百年、何千年でも生きのります。今、お墓に入れてもコンクリートで、自分の亡骸は土に還れないということは再生復活出来ないということです。此の地球とはこの体を再生復活する力です。今やマンション型のロッカーで御骨を預かったり、遺灰を預かつたりするのです。皆さん考えてみなさい、自分自身が



教主様を真中に愛らしくお顔近くおまか

今日は立教例大祭。もう教団も立
十七歳になつたわけです。後三年経
ちますと七十歳です。令和九年、多く
の信者さんを集め、どんどん教熱
を伸ばして世の中の為に貢献したい
ものです。良い人を一杯育てなけれ
ばなりません。親孝行の出来の人、
国を愛する人を我々信仰者は一杯つ
くつていかなければなりません。そ
れが国の繁栄、そして世の中を穏や
かにする力です。日本人としての誇
りを、自分たちの親から、先祖から
生まれたこの命を誇りとして頂きた
いと思っております。今日は大変ご
苦勞様で御座いました。

そういう辛苦しい所に住めますか。嫌ですね。我々もこうして天地とつながったところに幸せを感じます。亡くなつた人の声を聞くことです。そういう方々が殊何かあると私たちを必ず守ります。立派な先祖が居るから我々は生きています。迷惑を掛け、自分も浮かばれたいという先祖も沢山居ます。だけれど、立派な先祖が居るからこうして生きていくらえなのです。日本は天地自然を神様と言い、この肉体の姿のある方を神様と言います。我々も何れ神様となれるのです。信仰して、祈祷したり供養したりするのには幽世に行つたら宝となります。靈界は厳しいです。この世は嘘をついたり、騙したりはあります。信仰して、祈りは形の無い世界では騙せません。全て知つていらっしゃいます。昔の人は嘘をついたりすると閻魔さんに舌を抜かれるとして、慎みを持たせました。今は何もありません。親も爺さん婆さんも、これは良いこと、馴染なことと教える人が居なくなりました。学校でも教えません。哀れですね。どうか信仰の縁にある皆さん方、人として何が正しいか教えておくのが親の責任だと思つています。



斎主嗣親様により神威神授之儀が執行された

十月五日、六日の両日に亘り、大國神社御本殿を斎場に本年十九度位を迎える御魂結之神儀が斎主嗣親様のもと執行された。

御魂結之神儀とは、親神大和皇大神の神魂と教信奉者の御魂を魂乃緒を結ぶことによって結び固め大神様の大神威を押し奉る尊き畏き神儀であり、計二十一年をもって成満となる秘儀神業である。

白装束に身を包んだ参行者は、儀式の説明を受け、修祓之儀にて心身を祓い清め、一同は祈祷殿前に列立なし、斎場よりの銅鐸の音が静かに響き渡る中、御本殿へ肃々と参進、御本殿へ入殿後、座して暫し瞑目、心静かに時を待つ。斎主嗣親様が御入殿、典儀より開祭詞が告げられ、斎主嗣親様による秘神儀が肃々と執行された。引き続き祝詞が奏上され、

皆様ご苦労様でした。今年で十九年、十九度位の巡り合わせを頂いての御魂結之神儀をおえさせて

頂きました。この御靈石という御神器、何時でも身に付けて念じて、自由自在にこの尊い御靈力を力にして頂きたいと思います。

振魂神名奉称を、申し上げた

神々の神御魂、父母父母と代々の親たち、そして自分自身の尊い魂、その吾魂。神様の神御魂と吾魂の結魂です。皆さん本当に尊い魂を頂いたということを改めて心にしつかりと留めて頂きたいと思います。

皆様に授予されました魂乃緒の輪は、大宇宙・大精神たる神様の魂、小宇宙・小精神たる自分自身の魂がしつかりと神様に抱かれてしつかりと結ばれるという尊い儀式ですから、しつか

り念じて下さい。思いや願いを神さまに聞いて頂くことです。どうぞこれを用いて毎日神行して下さい。こちらの奉鎮箱にこうして二十一休しつかり取りますからお祀りをされて、家の守りとして日々幸せの祈りをお仕えして頂きたいと思います。

参行者と、代参行者が大前に言上げられた。次に振魂神名奉称にて順に神々をお詫び申し上げ、大祓詞を奉

誦、麻比禮神事、開運御神水と天真名井による御清神事が執行された。

参行者は秘神事執行の後、平素は立ち入る事の許されない大床上へとご昇殿、嗣親様より、一人ひとりに

神威神授之儀が執り行われた。斎主玉串拝礼、代表者による玉串拝礼に続き、参行者全員に尊き御神器が神授され修祭となつた。

結びに嗣親様より御教話を頂き、本年の神儀は無事修められた。

参行者と、代参行者が大前に言上げられた。次に振魂神名奉称にて順に神々をお詫び申し上げ、大祓詞を奉

誦、麻比禮神事、開運御神水と天真名井による御清神事が執行された。

参行者は秘神事執行の後、平素は立ち入る事の許されない大床上へとご昇殿、嗣親様より、一人ひとりに

神威神授之儀が執り行われた。斎主玉串拝礼、代表者による玉串拝礼に

続き、参行者全員に尊き御神器が神授され修祭となつた。

結びに嗣親様より御教話を頂き、本年の神儀は無事修められた。

参行者と、代参行者が大前に言上げられた。次に振魂神名奉称にて順に神々をお詫び申し上げ、大祓詞を奉

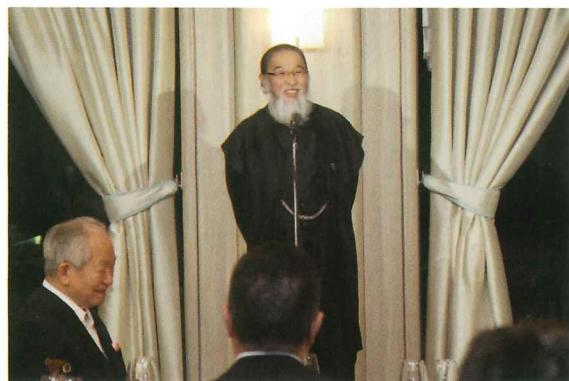
誦、麻比禮神事、開運御神水と天真名井による御清神事が執行された。

参行者は秘神事執行の後、平素は立ち入る事の許されない大床上へとご昇殿、嗣親様より、一人ひとりに

新宗連全國總會
金峯山寺表敬參拜

教主様は十月八日に福岡県筑紫野市の善隣教本部にて開催された新宗連全国総会へのご出席と、翌九日には奈良県吉野山の金峯山寺を表敬参拝をなされるため、平松事務総長を伴なわれ、七日から九日にかけて福岡県と奈良県へとご出仕をなされた。

八日、前泊先のホテルにて、嗣親様とも合流し、新宗連全国総会会場の善隣教本部まで送迎バスにてご移動、教主様は来賓控室にて旧知の先生方との再会を喜び暫しの間、親しう懇談をなされた。



懇親会にてご挨拶をなされる教主様

総会に先立ち、先ず御神殿において、それぞれの教団の拝礼作法において祈りを捧げ、次いで、力久隆積聖主様のご墓所にて、生前のご功績を偲び、出席者一人ひとりが順に献花を申し上げた。

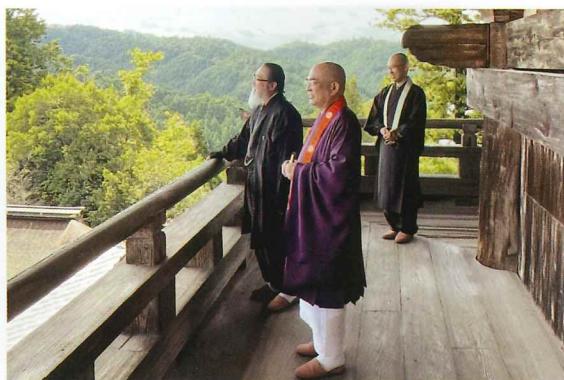
引き続き、昼食をはさみ理事会が開催され、重要事項が審議された。

港から空路大阪伊丹空港へと移動
伊丹空港にては、レンタカーをチャーチーし一路奈良県吉野山に鎮座する金峯山寺へと向かわれた。
金峯山寺に到着すると、門前にて密井利隆事務長により丁重なるお出迎えを頂き、貴賓室へとご案内を頂いた。五條良知管長猊下と五條永執行長お揃いの中、金峯山寺建立の由来や吉野山での豊臣秀吉のお花見の逸話、また、先般 NHK の大河ドラマ「光る君へ」にても放映された、藤原道長の金峯山詣についてなど親しく懇談をなされた。暫しの懇談後、藏王堂へとご移動をなされ奇しくも正午の「丑祈り」の時間と

を救えるは、許し合いの心を持つた
大和民族、大和魂、大和の心である
ことを「昨日の敵は今日の友」との
“ことわざ”を引用して述べられ、
今後、新宗連の活動が世界の平和に
とつて如何に大切であるかを述べら
れた。

理事会終了後は再び送迎バスにて懇親会場であるホテル日航福岡へと移動し、コロナ禍を経て五年ぶりとなる懇親会が開会された。

重なり、五條管長猊下、五條執行長とともに、お祈りをさせて頂く有難い時間を賜つた。



金峯山寺蔵王堂より吉野山の風景を堪能される教主様



五條良知管長猊下と懇談なされる教主様

皆様のおこころに感謝と 御礼を申し上げます	神恩感謝料奉納者御芳名	金一封
	幣帛料奉納者御芳名	教主様
	金壱拾萬圓	菅原 昌彦
	金參萬圓	須田 公子
	金貳萬圓	相双分祠一同
	金伍阡圓	匿名者
	金壹萬伍阡圓	庄内分祠一同
	金壹萬圓	三陸分祠一同
	金伍阡圓	加藤潤一 加藤忠三
	立教例大祭奉賛者御芳名	
金參萬圓 大和コウケン(株)吉田	來	
金壹萬伍阡圓	庄内分祠一同	
金壹萬圓	三陸分祠一同	
金壹萬圓	金子 弘子	峰生
金子三保子	畠山真由美	横尾
安達 菊雄	安付 仁	兼剛
川上 賢一	川村ヨシ子	遠藤 浩由
金伍阡圓	阿部 勝雄	利孝
加藤 裕美	作間 由枝	佐藤 良子
隨 意	本田 黙	阿部 光一
石川トシ子	石川 洋子	森 裕子
大友 圭吾	大友 安子	木下 和子
國分由美子	斎藤 公志	佐藤 央子
佐藤 高司	菅原 孝	高橋 静子
丹治 見澤	松井 純逸	小澤貴美子
宮腰 くに	引間 玉子	高橋 重夫
鶴沢 正明	加藤 潤一	加藤 美紀
大平 健彦	菊地 正浩	熊谷 親子
鈴木絵美子	齋藤 正秀	八嶋 健嗣
渡部 きよ	斎藤せつ子	匿名者
竹本聰・悌子	匿名者	匿名者
荒稻奉納者御芳名	御米奉納者御芳名	糸野 和子
御米奉納者御芳名	糸野 和子	斎藤 秀政

12月行事予定表	
12月12日	月1日 朔日火祥神事
12月12日	月5日 神光龍神祭
12月7日	惟神道統百二十七年 開祖様御生誕百十七年祭
12月11日	一年の御神託祭 親神感謝祭・祖靈万靈祭
12月12日	月15日 御神具御清・御取替神事 月次祭・五講祭
12月21日	月25日 冬至星祭 開祖祭
12月28日	五段大祓之神儀 六根修養会
12月31日	御神具御清・御取替神事 太祓・占神札焼納祭 大祓
1月行事予定表	
1月1日	歳旦祭・新年火祭初祈禱
1月5日	寒行・寒祈禱・神光龍神祭
1月11日	初月祭・祖靈万靈祭
1月13日	御教之事始め
1月13日	進学合格祈願祭
1月14日	寒中火祭謹行(2/3)
1月26日	特別禁獻祈禱・どんと祭
1月26日	月次祭・五講祭
1月25日	開祖祭
1月1日	六根修養会
1月1日	出羽三山伏勸進新年祈願祭



大和教団ホームページ URL
<https://taiwakyodan.org/top/>